

…というところで

前日の交信から
先遣隊数名と
連絡が取れて
いません

突如発見された巨大洞窟。

行方不明者も続出する

謎多き危険地帯に、

超法規的物件として

探索と救出を任されたのは、

凄腕の元女性軍人――

我が国と隣国との
休戦地域にある
この洞窟では

既に新資源も発見
されているので
再び戦争の火種に
ならぬよう

軍主導で
調査を行って
いたのですが…
この有様です

コクーンマッドネス

COCOON MADNESS

原因究明のために
隊員を増員すべき
だったんじゃないか？

軍の上層部が
これ以上犠牲は
出せないとの
一点張りです…

だから軍にとって
ローリスクである
退役軍人に声をかけた
…と？

本当に…
あなたには
頭が上がりません

ベリル義姉さん

トトリナ

元はと言えば
僕がちゃんと

リーダーで
確認していれば
イルケも…

あまり自分を
責めない事ね

調査隊直属の
偵察官に言う
ことじゃないが

現場が混乱している
状態で正確な確認が
出来るワケがない

けどね…
交信が途絶えた
からと言って

フィアンセ
偵察官の
あなたが信じて
あげなきゃ

私以外に誰が

イルケの
私の妹の
無事を
案じるんだ？

諦めるのは
まだ早いよ

それに…

…ええ！

信じます…！
信じています
とも…！

彼には少しでも
安心できるよう
鼓舞したつもりだが



イルケが
無事である
保証なんて
どこにもない…

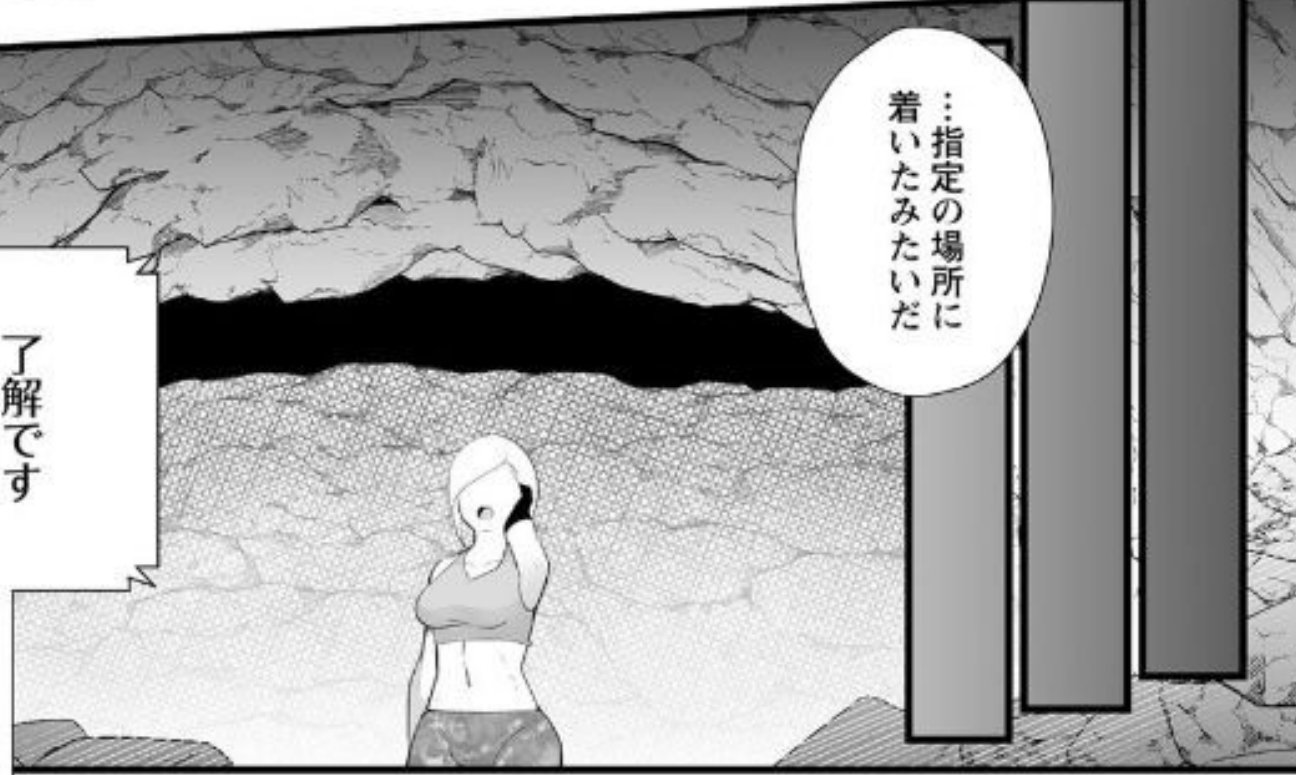


私も腹を
括らないとな…

…指定の場所に
着いたみたいだ

了解です

そこから先を境に
通信妨害されて
交信不能になります



ペリル
義姉さん…

無理だけは
しないでください



…ああ
ああ
彼女たちの
安否が確認
できれば
すぐに戻る

どうか
ご武運を…





ん...?



この大部屋で
洞窟は
打ち止めか…



これは…



しかも年端も
いかない女の子
じゃないか…!!

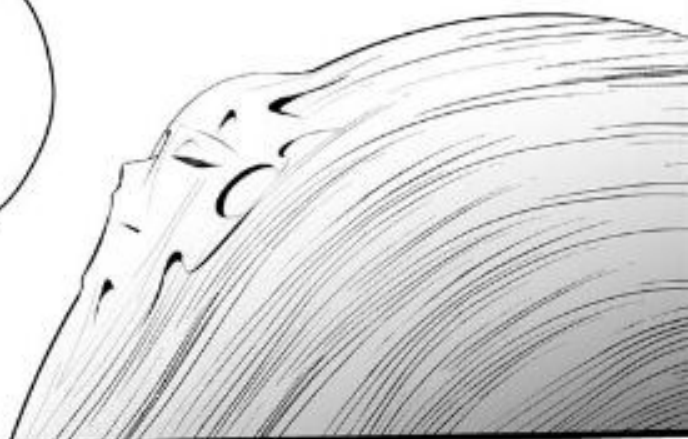


じんめんまゆ
人面蘭…!?



文献で読んだ
程度だが…

人間そのものを
媒体として生成
される人肉菌…



これが全部
そうだと
いうのか…!?

木



やはり…
というべきか

目視で確認できる
隊員は数名程度…



ここにいる
多くの者は
人間としての機能を
もたないだろう…

だがかろうじて
意思疎通が
できる者もいる

別動隊に依頼して
速やかに回収
してもらおう



先遣隊が
ここにいる
と伝えている…



……

イルケ…!?

…?

お…ねえ…
ちや…?

私が
見えるのか!?

イルケ!
私だ!

だ…め…

待ってなさい
イルケ

今助けるから

に…げ…



腕が溶けた…!?

はー!

はー!

まさか
コイツが
先遣隊を…!

まずい…
こちらの状況が
圧倒的に不利…!

ち…
近寄るな!

イルケには
指一本も
触れさせな

男性器…!?
コイツ雌雄同体
だったのか…!

お…
ね…え…

イルケの前で
唾えろと
いうのか!?

そもそもこんなの
入らない—

ズン

ズン

おー

ズン
ズン
ズン

挿入…

一気に
食道まで…!?



せめてイルケだけでもここから解放しなければ…!

不意だが
両腕を失った今
選択肢は一つ…

どんな身体に
なったとしても
彼のもとに
イルケを届ける…!

急に流れ
こんで…!?

お…ね…
ちゃ…

にげ…て

またあの
溶解液か…!

ぬち…

ぬち…

この液体を
なんとか
しなければ…!

ああ…
ああ…!

ぽ
ぽ
ぽ

やめろお…!


く…く…
拭…拭…
できな…

ぬち…


このおれも…
私も…

ぬち…


ぬち…
ぬち…
ぬち…



私があ
の魔物に
人面繭にされ
なかつたら



私のせいだ…



お姉ちゃんが
危険な目に
合うことも
なかつたんだ…

私のせいで…
私のせいで…！



ほっ
ほっ
ほっ



フッ
フッ
フッ



そんな…
この状況では
イルケすら
救えない…

イルケの前で
こんな羞恥を…



醜態を
晒すなんて…!

すまない
イルケ…

こんな姉さんは
見たくなかったよな…

あ…あ…あ…



ごめんね
お姉ちゃん…

おっ

ズ

ズ

あ

お姉ちゃんのため
に今の私が出来るのは…

ん

ん

お姉ちゃんのこと
傍にいたい

もう…
何も見えない…

最期までずっと
一緒だよ…
お姉ちゃん…

…?
何かが口の中に
入ってくる…

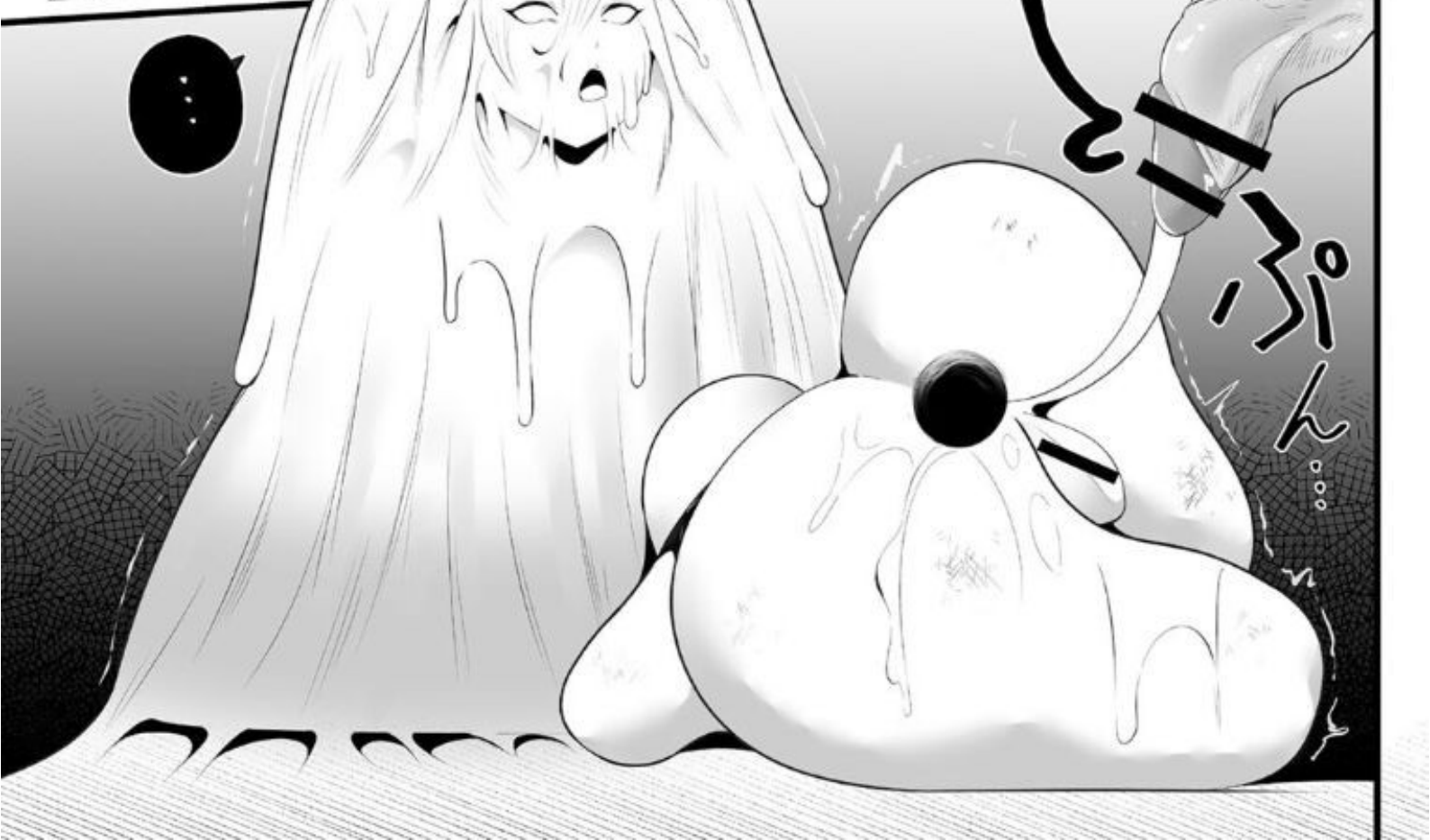
お姉ちゃん…
私…ここに
いるから…

まず…い…
意識が…飛ぶ…
ほわほわ…する…

お姉ちゃん…!
お姉ちゃん…
♥



い…
息が…ツ…♡



ウッ…

ベリル義姉さんと
イルケを含む先遣隊が
消息を絶って1ヵ月

その後 大きな
進展もなく上層部は
何事もなかったかのよう
に事態をもみ消した

単独での捜査を
続けていたが
解決する目途が
立たず――

後悔に苛まれた
僕は自らの手で
生涯を終える事と
なった――